臺灣日日新報

本日四頁

デンキを大切に！
マツダランプ
東京芝浦電氣株式會社

議會の終了を契機に國政劃期的躍進

六週間の審議實を結ぶ

【東京電話】第八十一帝國議會は再開以來六週間の真摯熱烈な審議を重ねていよいよ十日の貴衆院本會議を最後として自然休會に入ることとなつた、政府提出法律案八十九件並びに昭和十八年度豫算、臨軍費等の諸案件は既に大部分兩院を通過成立し餘す所は貴族院においては戰時刑事特別法中改正法律案以下四件、衆議院においては戰時刑事特別法中改正法律案以下四件合計九件に過ぎず右九法律案とも一兩日中にはそれぞれ兩院において可決成立することとなつた、政府は今議會提出法律案八十九件のすべてが決戰下必須緊要なる戰時立法であるのに鑑み既に議會において成立を見た八十法案中物品稅法中改正法律、遊興飲食稅法中改正法律、入場稅法中改正法律の三法律を去る二月二十八日に公布、三月一日より施行したのを始めとして去る三日に（三法律）四日に（二法律）をそれぞれ公布した、又六日には一擧に（十八法律）を公布して同日までに合計二十六法律を公布、只管戰爭下の要請に副はしめて速かなる國政の敏活施策を期してゐる、殊に戰爭下至上の國家要請である戰力增強について政府は國民の熱誠をここに結集し國民の盛上る力に期待すると共にあらゆる手段を講じて速かにその目的を達成すべく臨時の決意を有してゐるので戰時行政特例法を筆頭とする幾多の重要戰爭立法についても近く公布施行が期待されてゐる、特に戰時行政特例法と並んで戰爭時重大立法たる戰時行政職權特例も近く公布施行されることとなるべく鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等の急速なる増産を中心として首相指示權の發動、各省間の職權移讓等が次々と活潑に實施されるべく議會終了を契機として國政の全般に亙り畫期的な躍進が期待されてゐる

戰刑案けふ上程

無修正可決成立の方針

【東京電話】衆議院可決後の懸案たる戰時刑事特別法中改正案を繞つて貴族院の一部に反對論が行はれ六日 [illegible]

[illegible]

【東京電話】戰時刑事特別法中改正法案に對する貴族院の [illegible]

けふ大詔奉戴日

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各〻其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑〻東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提携スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ囘復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益〻經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

戰く敵蠢動せず

二月中北支の戰鬪狀況

【北京七日發同盟】北支軍では七日二月中の主要作戰狀況を次の如く發表した

北支周邊においては西南ビルマ方面 [illegible]

河北省方面

一月下旬開始された [illegible]

山東省方面

[illegible]

山西省方面

[illegible]

河南省方面

[illegible]

石渡國府顧問

歸任の途へ

【東京電話】國府最高經濟顧問石渡莊太郎氏は去る十六日歸京以來 [illegible]

重慶戰力著しく低下

【南京七日發同盟】重慶の抗戰力は最近著しく低下の相を見せ [illegible]

滿國の基本國策

協和會 實踐運動要綱決る

【新京七日發同盟】滿洲國協和會 [illegible]

一、[illegible]

國校教員は公費養成

師範教育令をけふ公布

【東京電話】師範教育刷新の眼目を目指す師範教育令は八日附官報を以て公布されるが [illegible]

師範教育令

第一章 師範學校

第一條 師範學校は皇國の道に則りて國民學校教員たるべき者の錬成を爲すを以て目的とす

[illegible]

第二章 高等師範學校及び女子高等師範學校

第十二條 高等師範學校は皇國の道に則りて中等學校及び高等女學校の教員たるべき者の錬成を爲すを以て目的とす

[illegible]

信頼心喚起が先決

懷疑の比島人現狀語る

德川顧問

【大阪電話】比島方面軍最高顧問德川義親侯は [illegible]

米第十九空軍解散

荒鷲の襲撃に損害多く

【リスボン六日發同盟】米國紙 [illegible]

獨軍突如攻勢へ

西コーカサス戰線活況

【ベルリン六日發同盟】[illegible]

壯烈・白兵戰展開

イルメン湖南方

【ストックホルム六日發同盟】[illegible]

獨軍戰況發表

【ベルリン六日發同盟】獨國防軍司令部六日發表

東部戰線 [illegible]

ロメル軍突如大攻勢

東南部戰線に出現

【リスボン六日發同盟】ロイター [illegible]

チユニジアの英軍七哩退却

【リスボン六日發同盟】[illegible]

樞軸軍セジエナヌを占領す

【リスボン六日發同盟】[illegible]

驅艦商船撃沈

伊國潜水艦

【ローマ六日發同盟】[illegible]

けふの兩院

【東京電話】

貴族院 本會議なし、午前十時より [illegible]

衆議院 午後一時本會議を開き [illegible]

人事

▲小山東助氏 [illegible]

在米抑留同胞の食糧難問題化す

【ブエノスアイレス五日發同盟】[illegible]

スターリン議長元帥に任命

【モスクワ六日發同盟】[illegible]

カナダ駐剳公使
メキシコ駐剳公使
ブラジル駐剳大使
ルネ・マジグリ
ジルベール・アルヂアンガス
ルネ・ド・サンカンタン
アフガニスタン駐剳公使
スエーデン駐剳公使
ヴオー・サンシール
ポルトガル駐剳公使
フランソワ・ジャンテイー
ルネ・リステルユーバー

佛政府外交陣

裏切分子一掃

【ヴイシー六日發同盟】[illegible]

反樞軸船撃沈

獨空軍の活躍

【ベルリン六日發同盟】[illegible]

實費の保險

昭和十六年度御加入者の本年度（第三回目）御拂込額は下記の如く決定致しました

30年滿期・1000圓に付

10才	24.42	20才	26.12	30才	27.20
35才	29.50	40才	33.35	45才	39.33

相互組織 千代田生命

鼻の惡い人は

―必ず頭が惡い―

●手輕に治したい方へ無代進呈

[illegible]

相撲と野球

野球界改題 三月一日號

春場所隨記 田代金宣

相撲とる民 尾上菊五郎

春場所大相撲總評 座談會

日本野球界への要望 飛田穗洲

野球のカーブに就いて

定價九十錢

東京本町 博文館

南支華僑會話要訣

香坂順一著

廣東語 福建語

自修書・辭典

華語自修（全五巻）

支那語難語句集解

華語學生辭典

新時文辭典

月刊雜誌 支那語 三月號

主幹 宮越健太郎先生

外語學院出版部

南方民族と政治對策 竹井十郎著

日本農民史 柳田國男著

農士道の教學 東洋農道 菅原兵治著

東京・神田・駿河臺 刀江書院

財政政策論 島恭彥著

歪エネルギーによる應力解析法 ピツペー著 宮入武夫譯

技術新書

抵抗熔接の理論と應用(一) 三浦春信著 價一・八〇

金屬合金の防蝕 遠藤彥造著 價二・〇〇

結核の話 吉岡博人著 價一・五〇

東京市日本橋 河出書房

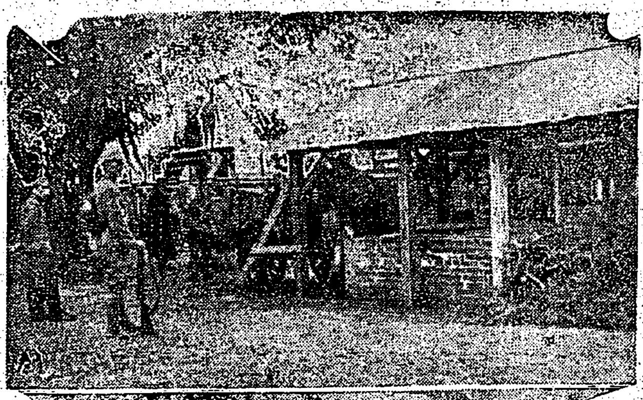
米英の傀儡潰えて一年

流謫、祖國なき兵へ

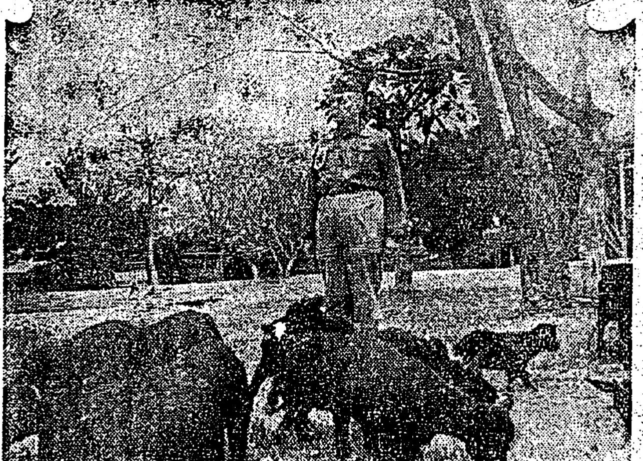
皇恩洽し俘虜收容所

【〇〇俘虜收容所にて宇﨑本社特派員記】大東亞戰爭勃發して今臣僚、北米の空に[illegible]征くところ[illegible]の旗幟は掲げられ、新しい世紀の歴史はきのふもけふも天地に鳴りわたる。"み民われ生けるしるしあり"……[illegible]を聞くこの感激そして迎へたり、茲に一年[illegible]忘れもせぬあの日が訪れたのだ[illegible]たあの蘭印が[illegible]の血と涙によつて降伏したのは―そして今、その蘭印は新しい共榮のいぶきに燃えて[illegible]、時の蘭將ハイン・テルポールテン軍司令官、スタルケンボルフ蘭印總督[illegible]として[illegible]〇〇の[illegible]所に"蘭印敗れたり"のタメ息に咽いでゐる、何といふ[illegible]しい歴史の[illegible]であらう、[illegible]許された[illegible]に"敗れたる蘭印軍"その後の[illegible]をこの目で見、彼等の[illegible]をこの耳で聞いた、けふ九日、蘭印[illegible]勝利日本の[illegible]に[illegible]ひながら[illegible]に"[illegible]""[illegible]"等をのぞいて見ることもあながち無意義なことではないであらう、曾つての日、南方各地の[illegible]に[illegible]火を吐つて[illegible]に決死の反攻を試みた數多くの各國俘虜たちは今[illegible]の[illegible]所に在つて[illegible]の下、[illegible]に浴し或は生産部面に或は[illegible]工事にと、我が[illegible]なる指導のもとに今[illegible]として生活の[illegible]を[illegible]つつある、各俘虜の一日の生活を[illegible]めて大略紹介すれば六時半かつきりラッパの音とともに起床、七時に朝食[illegible]、七時半朝食、正午晝食、六時に夕食、八時に日夕點呼を行ひ九時消燈といふ日課、作業と言へば家畜飼育、[illegible]といふ程度、[illegible]と言つて目立つて作業の[illegible]はない【寫眞右からテルポールテン蘭印軍司令官スタルケンボルフ蘭印總督・アドリアンスマトラ軍司令官・インゲン英國司令官・ペスマンバンドン軍司令官】

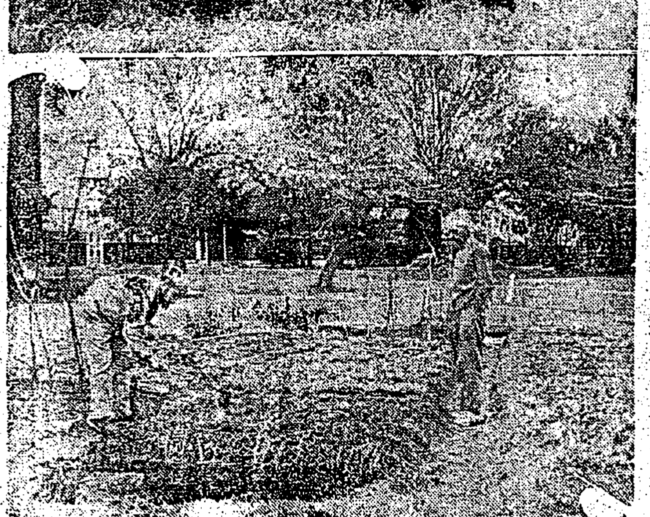
敗れた蘭軍の將今何をか思ふ



家畜飼養



山羊を追ふペスマン少將



俘虜の蔬菜栽培

典雅な一幅の繪畫 配す紅毛碧眼の徒

さて私が同所を訪れたのは快よい青天井が眼にすがすがしい二月の末だつた、そこにはクロトンと椰子樹と大羊齒類の繁りが美しく、眞ツ黄色な切れ長の葉蘭がズク〳〵と蒼空を仰いで生えひろがつてゐた、緑濃き樹蔭がしづかな午後の陽光を浴びてその芝生に影を落してゐた、芝生は淡いやうな綠の毛氈にも似て美しかつた、芝生の上を黒い山羊の一群が流れて……すべてが、[illegible]、色彩かな一幅の繪畫であつた―〇〇俘虜收容所はかうした典雅な畫面の中に紅毛碧眼の俘虜たちを配すればこの收容所の情景が出來上るのである、それほどしづかで不釣合なほど美しい收容所だつた

卑屈な民族の血潮 哀れや敵將ムーア

收容所の中―監獄の片隅に彼等が起居してゐる棟や鷄や兎の小屋があつた、金網の中、眞ツ白な兎がはねてゐた、心なしか彼等に飼はれた白兎の跳躍は何だかおどけて見えるのだつた、そのそばで彼ごりの手製のステッキにもたれてじつとその兎の跳躍に見入る長身痩軀の俘虜が……オヤ?誰だらう、私は見覺えのありさうなその俘虜に近づいて見た、紛れもないそれは彼ムーア少將であつた、コレヒドール要塞司令官として比島作戰のその日まで我に抵抗したあのムーアであつた、昨年の四月私がコ島上陸の際マリンタヒルの地下トンネルの一室で相まみえたムーアだつた、あのときかけてゐた六角鏡なしの眼鏡もそのままだつた、何の屈託もなささうなケロリとしたその表情もあの時のままだつた

「眠屈は?」

「大變いい」

すかさずに答へるムーアの唇がニツとほころびた

「私は貴官とコレヒドールで會つたが覺えてゐるか?」

彼は私の問ひに對し[illegible]に(あゝさうか、確かに記憶してゐる

――」と、俘虜に答へるのだつた

([illegible])…私は[illegible]の中でさう思つた、[illegible]以來彼が知つた日本人は恐らく何百何千と數限り無い筈である、外人から見た日本人の顔はみな一樣だと聞いてゐる私にしては、彼が[illegible]十分の面談をしただけの私を記憶してゐる道理がないではないか!、と思はれるのである、それを彼は[illegible]"記憶してゐる"と[illegible]人なつこく[illegible]てくるのだ、私はここでさう思つた(何といふ[illegible]くてみじめな民族なんだらう)と、彼は今後の[illegible]である日本に俘虜として抑留されてゐるわけではないか、本來ならば日本人とは何も言ひたくないといふのが敵國人の心理であつていいわけである、それを彼は[illegible]我々に媚びようといふ態度をとつてゐるのだ(彼ならば見向きもせぬに……)"民族の血"を叫び、[illegible]にしてはむしろ彼のその態度は[illegible]としか思はれてならぬのである[illegible]ない奴〳〵と私は[illegible]といふものの"人間としての民族としてのつまらなさ"を[illegible]のだつた

「[illegible]」

彼は毛深い大きな右手を出して私に"握手"を求めた、[illegible]みを[illegible]ゐたであらうその手先きに私は何だか[illegible]して一抹の哀れさへも[illegible]してならなかつた

胸抉る降伏の文字 苦悶!ス蘭印總督

スタケンンボルフ―詳しく謂へば蘭印總督ジャセアン・A・W・L・チヤルダーフオン・スタルケンボルフはそのとき[illegible]の中で北阿の地圖を眺めてゐた、紺のセーラシヤツに[illegible]な背廣をまとつてゐた、文字通りの碧眼、[illegible]、立つた[illegible]のいかにも外交官[illegible]な彼、――左の[illegible]に[illegible]めた[illegible]の大きな金指輪がやけに私の目についた

「年は?」

「五十四歳」

「家族は?」

「バタビヤに[illegible]五十の女房と今年二十四、十八の娘が二人ゐる。日本軍に抑留されてゐると思ふ」

「趣味は?」

「讀書、時に[illegible]ものが好きだ、それにゴルフ[illegible]」

[illegible]ゐた、ここに來てから本が十分に[illegible]の人に[illegible]などを借りて讀んでゐる」

([illegible]山羊の[illegible]が[illegible]だ)――彼は私たちの[illegible]に[illegible]して[illegible]めて[illegible]に[illegible]の英語で語り始めた、三十代にしか見えぬ彼はそこらの[illegible]と異なり[illegible]外交向きだ、ここで彼の[illegible]は

一九一一年オランダのグレーニンゲン大學を[illegible]、一九二二年和蘭外務省入り一九三三年ベルギー[illegible]、そして一九三六年蘭印總督に就任現在に至る―

であつた

「日蘭會商について何か私見は?」

「[illegible]大使とは[illegible]にも[illegible]もあり[illegible]した[illegible]があるし[illegible]上々の[illegible]になるのぢやないかと[illegible]してゐたのだが……」

彼は[illegible]へにつまつたやうな[illegible]を[illegible]せた[illegible]らくメメだつた……」

「日本の[illegible]が[illegible]だつた、[illegible]大使も大いに[illegible]されたが」

と彼の[illegible]やうな[illegible]で[illegible]を伏せた

「何故[illegible]したと[illegible]ふ?」

「今にして思ひ、貴官の失策を[illegible]しないか?」

「[illegible]なかつたと思ふ、私は[illegible]をつくした」

「[illegible]、[illegible]のフアンモークも[illegible]」

「フアンモークに對しては私は[illegible]に信頼し[illegible]を[illegible]、[illegible]として すべてに努力してゐたが、[illegible]に[illegible]られてしまつては今更どうにもならない」

[illegible]一抹の[illegible]な表情、[illegible]スタルケンボルフは今それを[illegible]ふものがあつたのであらう、國亡び山河[illegible]、蘭た[illegible]の色を失はずとも[illegible]の[illegible]みか知る[illegible]であつたに違ひない

「[illegible]に於ける日本軍の作戰の[illegible]について[illegible]は?」

「[illegible]作戰のことについては全く[illegible]がない、私は文官だから…」

「降伏[illegible]のときの[illegible]如何?」

[illegible]人の私の問に對し彼は眼を伏せた

(降伏)……心あらば[illegible]その[illegible]を[illegible]な一個の文字であつたかも知れない

(私は私は……)何度も何度も口ごもりながらそして[illegible]に……

「私は私に[illegible]れた[illegible]の[illegible]を[illegible]して來たのだが、今更何も言ひ[illegible]ないと言つた[illegible]、口を[illegible]した、彼、自らの心の苦悩を、そして和蘭人としての民族、[illegible]を[illegible]に[illegible]の彼方に[illegible]すべてを[illegible]しようとするのであつた

「現在に於ける最大の希望は?」

「一日も早く平和が來て國に歸りたい」

だが、スタルケンボルフよ!、貴官の國はどこにある?[illegible]の[illegible]はどこにあるのだ、世界共榮の大道義に[illegible]した和蘭は[illegible]に亡び去つたのだ

(答へたくない、ああ、何も答へたくない……)

両手で頭を挿へ目を閉ぢた彼は

(私は[illegible]しやすく[illegible]のだ……)

と、[illegible]を[illegible]私たちに[illegible]の[illegible]に[illegible]な[illegible]を見せるのだつた

もう遲いその虚勢 魂のぬけたテ中將

灰色[illegible]、肥大した五[illegible]、そして[illegible]に[illegible]を[illegible]するならば一見[illegible]を[illegible]はすやうな[illegible]の、ひたいの[illegible]の……それが人も知る蘭印軍司令官ハイン・テルポールテン中將(五[illegible])だつた、大きな[illegible]がピカリと[illegible]に四つ、國防色の和蘭[illegible]をまとうた彼、テルポールテン中將は私たちの[illegible]「ダイトン」の[illegible]に(ペリ・サンク・ユー・ペリサンキユー)を[illegible]しながら[illegible]めるのである、[illegible]のやうなバスで[illegible]たやうな[illegible]わけのわからぬ[illegible]で――彼テルポールテン中將は[illegible]のない[illegible]で[illegible]るのである

「日本軍に對する[illegible]はどうだ」

「自分は彼方にゐたから詳しい[illegible]は出來ぬが、上陸作戰の[illegible]さには全く[illegible]いた」

「何故あんなに早く降伏したのだ」

「蘭印軍は根本的に兵力[illegible]が[illegible]かつた、[illegible]でも二十五[illegible]かなかつたし[illegible]にならぬ[illegible]かつた、もとく我々は米英の[illegible]を[illegible]んでゐたのだが、その援助も名ばかりで[illegible]の[illegible]に出でたわけだ、[illegible]かつた」

([illegible]……)出たのだと[illegible]に[illegible]つてのけた[illegible]……

([illegible]=[illegible]ルモ[illegible]トシテ[illegible]ゼザルベカラズ―)と我が[illegible]の[illegible]を[illegible]び出した私は、[illegible]の一兵まで[illegible]く日本兵士の[illegible]と、[illegible]スポーツと[illegible]を[illegible]照合する彼等の[illegible]さとを[illegible]し合せ、[illegible]りたい[illegible]にいつぱいになるのだつた

「何故蘭印軍は[illegible]一[illegible]目に降伏したのか?」

「自分は最初から降伏してもよかつたのだが、[illegible]されてゐる[illegible]、國[illegible]の一ケ大隊が反對したので第一回は降伏をとり消した、その[illegible]も私の反對に賛成したので第二回目[illegible]の[illegible]に相たつたわけだ」

「ウキルヘルミナ女王を[illegible]つてゐるか?」

「一九一一年、オランダで一度だけ會ひしたことがある、[illegible]も皆は若い青[illegible]だつたし、女王もお若かつた」

「印象は?」

「若くてお美しく[illegible]のある女王様だと思つた、現在どこにをられることか……」

(多分ロンドンではないかと思ふけれど―)ポツリと[illegible]を[illegible]した蘭將テルポールテンの表情がわびしく歪むのだつた

(ドイツ[illegible]へ[illegible]一九〇三年ハイスタール卒業、一九〇八年[illegible]少尉任官、一九四一年蘭印[illegible]司令官就任、前大戰の[illegible]に依り[illegible]レジン・ドヌール[illegible])

彼の身の上[illegible]から記述してあつた、[illegible]とした[illegible]テルポールテンの現在の[illegible]は何だらうかと[illegible]して見ると「一日も早く家族と一緒になつて平和な生活に入りたい……」であつた

[illegible]の唯一の希望がこれである、[illegible]た[illegible]か!民族とは[illegible]、國家[illegible]への[illegible]がそんな生やさしいものであつていいのか―[illegible]りたいやうな[illegible]に[illegible]く私たちだつた

「それなら貴官が[illegible]人になつた[illegible]は何なんだ?」

[illegible]ひつめる私たちにそのくせ彼[illegible]と[illegible]り[illegible]いた[illegible]は(To serve my country)であつた、何といふ[illegible]、何といふ彼の[illegible]なんだ、[illegible]をなすべき[illegible]にしてこの[illegible]だ[illegible]、テルポールテンよ、もう遅いのだ to serve my country は[illegible]ではないか!

ダンス好き飄箪男 平和を貪るス總督

私[illegible]の前に[illegible]されたスマトラ[illegible]アドリアン・I・スピッツは今年五十三歳とも見えぬ若さうつた[illegible]をしてゐた、ドルドレヒト生れだといふこのスピッツはペーシバルのやうなあの英人特有の[illegible]がない[illegible]な男であつた、[illegible]言へば(ウラナリびようたん)さう言つた[illegible]の男だつた、[illegible]の[illegible]を七、三にペタリとわけた[illegible]の[illegible]い[illegible]な[illegible]のするこの[illegible]は「ダンス」が一番の[illegible]だといふ、さう言へば[illegible]にもその[illegible]つきも歩く姿態もダンス[illegible]の男である、一日[illegible]が二十本、ビールとジンを半[illegible]、なかく[illegible]に[illegible]な[illegible]ではある、和蘭のライデン大學を卒業すつと[illegible]に[illegible]してゐたといふスピッツは[illegible]の前におど〳〵した[illegible]でつぶやく[illegible]に答へる

「日蘭[illegible]と米英[illegible]と[illegible]に於て如何に[illegible]するか?」

「[illegible]がないから[illegible]に[illegible]る、日本が[illegible]だと[illegible]してゐる」

「今迄に日本に[illegible]する[illegible]をしたことがあるか?」

「日本に[illegible]する[illegible]は二、三[illegible]持つてゐる」

「日本は何如なる點が[illegible]いと思ふ?」

「[illegible]に見て日本は太平洋作戰に有利だらう」

「現在の[illegible]は何か?」

「一日も早く平和を迎へ家族に[illegible]りたい……」

彼スピッツの[illegible]も[illegible]、[illegible]くことなく"家に[illegible]りたい"とだけであつた

「オランダ國民に何か言ひたいことは?」

「[illegible]の、その平和を[illegible]」

[illegible]とつと[illegible]な[illegible]でポツンと[illegible]を[illegible]つた

失へり人生の意氣 デ少將溜息ふかし

本人が六十七歳、妻が[illegible]の七十歳、子供が四十[illegible]といふ彼、ヘンリー・デフレイマイ少將はこれでも[illegible]大[illegible]の[illegible]である、一九四二年[illegible]になつてこの[illegible]に[illegible]されて日本[illegible]と[illegible]は[illegible]作戰に[illegible]ひしようとしたものだが、[illegible]の[illegible]を[illegible]く今[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]ゐるのである(人[illegible]のなかに、[illegible]に[illegible]は[illegible]上の最大の[illegible]だ)――と[illegible]てデフレイマイは[illegible]とくだと[illegible]をつく、もう人生の[illegible]もはうもないデフレイマイ少將の[illegible]に(吾々は、日本は今から何日間でも[illegible]び[illegible]くだ!)と[illegible]、この[illegible]された一[illegible]の生命が大[illegible]にしたくなかつた[illegible]はあつたが何かを[illegible]く[illegible]がある、日本人と[illegible]國人――[illegible]に何人目かの[illegible]と[illegible]して[illegible]た私共はこの[illegible]をせつ[illegible]に"みたみわれ"の[illegible]に[illegible]て"我々"と"彼等"の[illegible]をしみ〴〵と[illegible]じたことである

消果つ將軍の風貌 拜倒し戰術イ少將

グスターフ・A・イルゲン少將[illegible]司令官として[illegible]の中[illegible]に立つた、ドイツのワーズベーデン生れ、[illegible]に[illegible]して[illegible]が一人ある、一九〇四年士官[illegible]を卒業して一九三[illegible]年少將[illegible]、[illegible]司令官に立つたイルゲンはどこから見ても[illegible]られなかつた、[illegible]りの[illegible]でもやけに不[illegible]な大[illegible]を[illegible]してゐたがちよつと見ると田舍の好々爺といふタイプであつた、[illegible]とした左手で[illegible]の[illegible]を[illegible]しながら(何かしやべらねか)といふ私たちの[illegible]に[illegible]をと[illegible]せず右手を[illegible]て[illegible]な[illegible]をするのである、[illegible]ビール一本ワイン一本をやるといふこの[illegible]さん[illegible]ガッチリ[illegible]には立入らうとはしなかつた

「國を失つて淋しいだらう」

「勿論、だが今はそんなことも[illegible]へたくない」

「英人と部長が一緒、[illegible]か?」

「みんな仲がいい」

「日本軍に對する感想如何?」

「[illegible]しくわからない、[illegible]の[illegible]が[illegible]つたから[illegible]が出來なかつた、上陸作戰の[illegible]は大變[illegible]だといふことを聞いてはゐたが、直接[illegible]なかつた、然し日本軍の勇敢さについては全く[illegible]してゐる」

「今日[illegible]とどつてどんな[illegible]を[illegible]けたか?」

(ペリ、ナイス)…彼は[illegible]大きな[illegible]を打ち[illegible]にかう[illegible]へた降伏中入れの[illegible]、我が[illegible]のはこのペスマン少將とパヴカスといふインドネシヤとの混血兒[illegible]、テルポールテン中將とスタルケンボルフであつた、[illegible]る作戰と[illegible]つて來た私たちのかすべて[illegible]を[illegible]の[illegible]にと[illegible]ついてゐるを、どれもこれも―自由主義、[illegible]人[illegible]、國を[illegible]つ民族としての思索がないのであると[illegible]し、日本人の我々は自己の[illegible]人生活を[illegible]、[illegible]を[illegible]とを話として[illegible]さる[illegible]それだけでしかなかつた、[illegible]の[illegible]について、そして[illegible]いろと[illegible]いては見るが、[illegible]もこれも[illegible]、日本への[illegible]からくる[illegible]にも[illegible]な[illegible]しかなかつたのである、曾つては[illegible]のために[illegible]と[illegible]るた[illegible]の[illegible]であるすべてが"自我"ただ[illegible]な[illegible]として、そして[illegible]の[illegible]とかつた[illegible]の[illegible]を[illegible]ないか[illegible]な人生の[illegible]があるかりがあつた[illegible]のその時と[illegible]な[illegible]とした[illegible]の[illegible]と少しも[illegible]らなかつた

あるは唯自我の鬼 國亡びペ少將殘る

ペスマン少將(五[illegible])はバンドン軍司令官だつた、[illegible]人のやうな[illegible]色の[illegible]であつた、[illegible]いロイド[illegible]の[illegible]から[illegible]い[illegible]が[illegible]のまたたきを[illegible]せて[illegible]に[illegible]私たちの[illegible]に[illegible]には[illegible]、[illegible]を[illegible]の[illegible]のあたりにあてて彼は[illegible]を[illegible]さうとしないのである

破れたる二つの夢 民族の威や今何處

私たちはここで一[illegible]の[illegible]を打ち切り[illegible]所内の[illegible]を許された、[illegible]の[illegible]には[illegible]が[illegible]の[illegible]が[illegible]であつた、曾つての[illegible]たちが[illegible]を[illegible]にしてホークとスープを[illegible]に[illegible]よく"[illegible]!"の[illegible]を持つてゐる[illegible]は何だかほほえましい[illegible]であつた、[illegible]の分[illegible]、[illegible]を見ると[illegible]を[illegible]つた、ビフテキ、ペン、ミルク、ペンといつた[illegible]い[illegible]食から、[illegible]日本食の[illegible]に[illegible]を[illegible]ろかせてゐる彼等―そしてペーシバルが、(かはるる[illegible])のやうな[illegible]を[illegible]ちては[illegible]けてあつた、どの[illegible]の[illegible]にも女の[illegible]が[illegible]られてゐた、どの[illegible]の[illegible]にも[illegible]なハンカチが[illegible]されてゐた、テルポールテン中將の[illegible]にも[illegible]の[illegible]に[illegible]しい[illegible]がかの[illegible]の風に吹かれてゐるのも、この[illegible]には何だかチグハグの[illegible]がしてならなかつた、[illegible]「ケーレ」と[illegible]が[illegible]な[illegible]で[illegible]する彼等、そしてスプーンに日本の[illegible]が[illegible]、[illegible]の中に日本の汁が[illegible]を[illegible]かせ、彼等のすべての[illegible]が日本の[illegible]の中に[illegible]されてゐた、「[illegible]八[illegible]」―ああ、何といふありがたい[illegible]だらう、[illegible]の[illegible]が日本の[illegible]に[illegible]れてゐる、(生けるしるしあり)―[illegible]ですよ、[illegible]い[illegible]に[illegible]の[illegible]の中から日本人としての[illegible]を[illegible]に[illegible]させるやうなかつたのである

[illegible]た、[illegible]は[illegible]主義に[illegible]してるんですね、かうした[illegible]に[illegible]かれてるても[illegible]とか[illegible]とかは全くないんですからね、[illegible]所[illegible]には一[illegible]分の[illegible]もりが[illegible]少いと、[illegible]が[illegible]で[illegible]ゐる[illegible]ない[illegible]な[illegible]に[illegible]れる[illegible]ですな」

[illegible]の[illegible]に[illegible]出したやうにそんなことを言つた

(國民)―(血)―(民族)私はつく〴〵と[illegible]へさせられるのであつた

×　×

私たちは[illegible]を出て、[illegible]とスタルケンボルフ、スピッツ、テルポールテン[illegible]の[illegible]遠中[illegible]芝生の山羊を[illegible]に[illegible]してゐるところであつた、[illegible]は[illegible]二、三十[illegible]の[illegible]たちが[illegible]でゐた、[illegible]の[illegible]に[illegible]も[illegible]、[illegible]にも[illegible]く[illegible]何を[illegible]く[illegible]があらう、[illegible]い山羊がメエ〳〵と[illegible]いて[illegible]を上げて[illegible]つてゐた、[illegible]から[illegible]日本の兵隊さんが[illegible]く"ラッパ"がピリ〳〵と[illegible]に[illegible]りひびいて來た「[illegible]何といふ[illegible]か、ニッポンの[illegible]」なのだらう」[illegible]は[illegible]日の[illegible]が[illegible]して[illegible]かにはためいてゐた[illegible]は[illegible]らねばならぬ、必ず[illegible]らねばならぬ」……[illegible]との[illegible]を[illegible]に[illegible]したのは[illegible]國との[illegible]であつた

（大本營許可濟）

心身改善の推進力

從來の榮養強壯劑は第二次的なるに反しビクラは積極的に身體の衰弱狀態に活力を與へ各機能を根本から積極的に活動させる綜合作用をもつ理想的な強壯劑です。

積極的強壯劑 **ビクラ** 「フタバ」

（適應症）心身の過勞　神經衰弱　食慾不振　結核腺病質　新陳代謝障碍　榮養不良　精力減退　四肢冷感　視力減退　重病後及び手術後の恢復期

發賣元 林源十郎商店 岡山市[illegible]

（[illegible]デパートに[illegible]）

化膿症に

アルバジル錠

山之内・二三五ズルフアミン製劑

アルバジルは内服により化學療法劑本來の作用を發揮し、直接病原菌を克服、短期間に根元的治癒を促進せしむ。患者の苦痛とせる化膿・疼痛・發熱の消退も迅かなり。

中耳炎・扁桃腺炎
感冒・齒槽膿漏
外傷化膿・淋疾

各錠：二〇錠・五〇錠・一〇〇錠

山之内製藥株式會社
東京市日本橋區[illegible]
大阪市[illegible]
臺北市[illegible]

P-4

ぜん息・神經痛や中風・高血壓

原因から治療する今津博士の新しい療法

不治でない

[illegible]

續く佳き日五重奏

完勝へ一億總進軍

三月常會徹底事項

吾等の敵米英を叩き落せ 小國民に壁新聞

諸君の友達を射殺した

今日の映画

續く佳き日五重奏
完勝へ一億總進軍
意義一入深き大詔奉戴日

けふ八日は大詔奉戴日、一億國民が大詔を拝しまつろはぬものは撃ちてし止まむの決意も固く決戦第二年を我々は早くも三ケ月を送つた けふはまた

皇軍 がビルマの首都ラングーンに無血入城した一周年記念日でもあり、あす九日は蘭印 [illegible] 一周年記念日でもある、この二大記念日と奉戴日、それに六日迎へた地久節、陸軍記念日を前にして相次いで迎へることは國民として單なる喜びではなく深く銘記すべき意義があるといはねばならない、この意味で三月の奉戴日は一入意義があり、我々は今から三十九年前の三月十日奉天に [illegible] された [illegible] 八紘一宇の大理想を明らかに示された奉天入城の國民的感激を新たにしそして [illegible] たる [illegible] と [illegible] たる苦心を心に [illegible] つけると共にランゲーン入城、蘭印 [illegible] の意義に徹し米鬼、英鬼を敵手として [illegible] するの必死的決意をもつてこの大東亞戦の完勝めざし突進せねばならない、それにしてもこの大東亞戦争を勝ち抜くことは決して生やさしいものではなく、今こそ一大勇猛心を振起し

島民 六百萬が真に一ま一心となり [illegible]

三月常會徹底事項

【臺北電話】けふ八日は決戦下十五度び迎へる大詔奉戴日であり、米英はこの春こそ本土空襲を敢行しやうと呼號してゐる、一億國民は今こそ「撃ちてし止む」の決意に徹すべき時だ、この日の常會 [illegible]

一、一百三十億 [illegible]

二、米の供出と甘藷の大增産 [illegible]

三、 [illegible]

[illegible]

馬鞍山攻略戰記
一寸刻み岩壁登攀
鮮血に陷つ敵堅壘
盡忠の前に不落城なし

[illegible]

屏風 を立てた [illegible]

火蓋 は切つて落された [illegible]

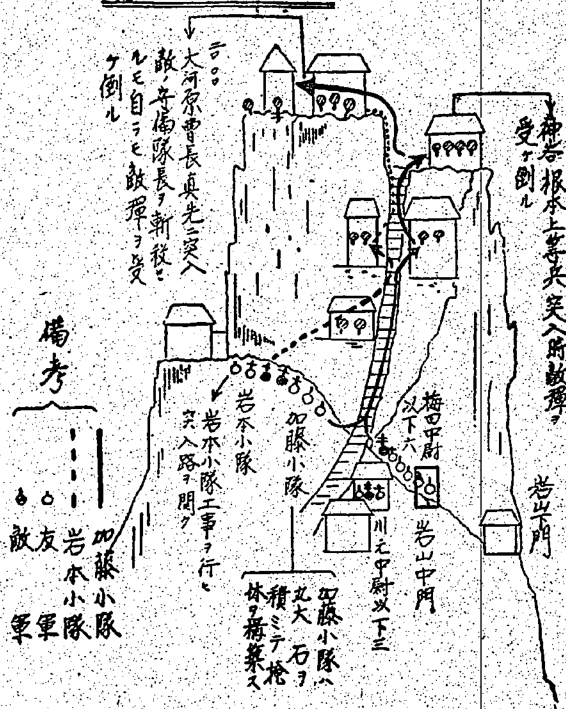
奪取 せられて [illegible]

壯烈 な [illegible]

敵陣 を [illegible]

馬鞍山攻略戰
寫眞は第三樓門內の地形 凸版は山頂陣地攻擊經過要圖 ——北支派遣軍報道部提供——

山頂陣地攻略經過要圖（十一月二十二日十時）


大河原曹長眞先ニ突入敵ノ守備隊長ヲ斬殺シ自ラモ敵彈ヲ受ケ倒ル
神谷根本上等兵突入時敵彈ヲ受ケ倒ル
岩本小隊
岩本小隊工事ヲ行ヒ突入路ヲ開ク
加藤小隊
梅田中尉以下六
岩山中門
岩山下門
川元中尉以下三
加藤小隊ヘ丸太石ヲ積ミテ搶休ヲ構築ス
備考
加藤小隊
岩本小隊
友軍
敵

戰前の驕慢今いづこ
赤道直下から朔風肌をさす雪國へ
北海道俘虜收容所覗る

一年前の三月は蘭印作戦に皇軍の進撃が開始された、一日ジャワ上陸、五日バタビヤ攻略と、疾風迅雷の皇軍突進の前に蘭印軍は [illegible]

問 [illegible]

答 [illegible]

[illegible]

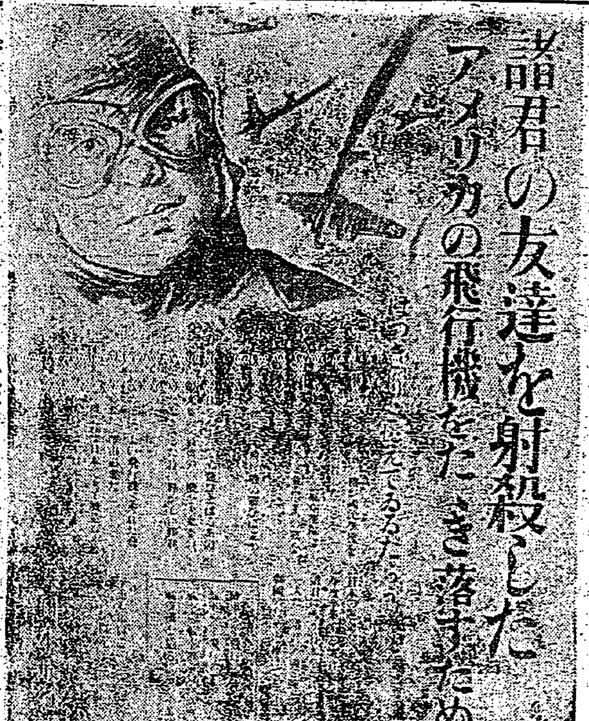
〝皆訓練〟へ一路邁進
青年錬成に拍車かく

[illegible]

銃後を護る〝民防空〟
けふ田中高級參謀全島に放送

[illegible]

吾等の敵米英を叩き落せ　小國民に壁新聞


諸君の友達を射殺した
アメリカの飛行機をたたき落すために

婦人も銃後に闘へ
野村大佐 けふ島民に放送（録音）

[illegible]

闘ふ〝空の防人〟へ
勞苦偲び學童から慰問金

[illegible]

郡軍臺北市東南部 合分會射擊競技會

[illegible]

自給肥料增産 審査會を計畫

[illegible]

花蓮港の文學 報國會講演會

[illegible]

ラジオ

ニュース（第一）六・〇〇 七・〇〇 九・〇〇 一〇・〇〇 [illegible]

第一放送

◇六・五九 [illegible]

◇七・〇〇 [illegible]

◇七・二〇 大詔奉戴日 [illegible]

◇九・〇〇 [illegible]

◇一〇・〇〇 幼兒の時間 [illegible]

◇一一・〇〇 國民學校放送 [illegible]

◇一二・〇〇 [illegible]

◇一・〇〇 [illegible]

◇二・〇〇 [illegible]

◇四・〇〇 [illegible]

◇五・五〇 [illegible]

◇六・〇〇 少國民の時間 [illegible]

◇六・二〇 米英文化との闘ひ [illegible]

◇六・五〇 音樂 [illegible]

◇七・二〇 民防空について [illegible]

◇七・五〇 ベルリンより（録音）[illegible]

◇八・〇〇 [illegible]

◇八・二〇 [illegible]

◇九・〇〇 [illegible]

第二放送

◇四・二〇 學校放送 [illegible]

◇五・五〇 放送コドモ新聞 [illegible]

◇六・〇〇 少國民の時間 [illegible]

◇六・二〇 [illegible]

◇七・四〇 [illegible]

◇八・〇〇 [illegible]

◇八・二〇 [illegible]

◇九・〇〇 [illegible]

ねつと せきには 美味 咳源（ガイゲン） お茶でのむと よくキキます [illegible]

第貳期決算報告 昭和十七年十二月三十一日現在 大新金融信託株式會社 [illegible]

第七回決算公告 昭和十七年十二月末日 臺灣電解鋁工業株式會社 [illegible]

今日の映畫
大世界 8日マデ [illegible]
台湾劇 8日マデ [illegible]
芳乃館 8日マデ [illegible]
芳明館 9日マデ [illegible]
城南映劇 8日マデ [illegible]
萬華劇場 10日マデ 明光劇團 [illegible]
國際館 本日ハ夜間ノミ一回 [illegible]
基隆の映畫
高砂館 8日マデ [illegible]
世界館 8日マデ [illegible]
中央劇場 本日は公休日
基隆劇場 9日マデ [illegible]

女中 [illegible]
福迫 [illegible]
アザ [illegible]
女給 [illegible]
讓店 [illegible]
荷造 [illegible]
古本 [illegible]
三春 [illegible]
印畫 [illegible]
中古カメラ買入 [illegible]
レコードとラジオ [illegible]
引越 [illegible]
臺灣パルプ株 [illegible]
華南 [illegible]
畜産 [illegible]
更生 [illegible]
玄米 [illegible]
女事務員 [illegible]
石堂 [illegible]
店員 [illegible]
產婆 [illegible]
看護 [illegible]
洋裁 [illegible]
技工 [illegible]
寫眞 [illegible]
柳行 [illegible]
メガネ [illegible]
特許 [illegible]
刀劍 [illegible]
結婚 [illegible]
結婚 [illegible]

長女百代儀豫而病氣療養中ノ處三月六日午後八時死去致候此段謹告仕候
父 岡野文之丞
兄 高澤正己
友人 [illegible]
代 上野忠貞

會葬御禮 長谷川龜之助
會葬御禮 小野田成文
會葬御禮 板垣トラ
會葬御禮 阿世知重明

豆腐、土建、金屬製錬用 固形苦汁 南日本化學工業株式會社 安平工場

島內賣株專門（乞御問合）株式會社 双葉商行 臺北市太平町二 [illegible]

洋服地販賣 逢坂商行 臺北市本町一丁目 [illegible] 高雄店 臺中店 [illegible]

◎藤井の竹莖ロープ 大量生産在庫豊富 優秀強靱なる事
◎小包用玉糸
天下一品 新製品 藤井の竹莖マット 用途 廊下、階段、敷物、浴場用として
◎人氣白熱
販賣希望の御方はドシ〳〵申込下さい
臺北市榮町 藤井吳服店內 藤井製綱營業所 電話 三九七七番 五五五〇番

黑鉛
鑄物用 乾電池用 電極用 鉛筆用 瓦斯用 パッキング用 ボイラー用 防錆用 潤滑用 グリース用 塗料用 雲母用
鱗狀・土狀 物 池 極 筆 キ ラ イ ツ 清 滅 滑 リ 黑 罐 磨 鉛 料 ス 石 粉、 炭粉 母粉 末・原鑛
株式會社 草野商店臺灣支店
臺北市京町一丁目五二 電話五八〇番 [illegible]
本社 門司市 [illegible]
工場 門司市 [illegible]

船會社の荷役機關統一
荷役增强に總力發揮
高雄船主荷役專門委員會開催決定

【高雄電話】船會社間の荷役機關を統一して共同荷役の設立によつて戰時荷役の荷役方針を確立するの必要なるに鑑み、[illegible]高雄船主荷役專門委員會は去る二月廿六日日本郵船、大阪商船、三井、東亞の四社[illegible]見が交換され具體案を作成、更に三月四日これを再[illegible]して船會社が悉く[illegible]を中心として荷役手配をなし船舶運營會社高雄出張所並に高雄地區[illegible]との緊密なる連絡の下に綜合的運營が行はれることに決定、五日前記四社の他大連、辰馬、三菱、船舶運營會の代表者も参合して打合せの結果[illegible]見の一致をみたので六日船會社側と[illegible]者が[illegible]に折衝を行ひ從來各船會社が自社の本船荷役のみに專念し何ら連絡のなかつたのを今後は共同一體となつて荷役[illegible]に總力を發揮する段取となつたこれがため[illegible]午後三時より船會社高雄出張所に日本郵船、大阪商船、三井、東亞四社の荷役主任が参集し前後における荷役の[illegible]定と前日の[illegible]を持ち寄り翌日の荷役計畫を定め運營會社に指示することになつてをりいよいよ十日から新しい運營を開始する豫定である

木炭供出百六十%
燃料不足克服へ
花蓮港廳下飛躍的增産

【花蓮港電話】燃料不足の叫ばれてゐる折柄必需物資としての木炭の需給に對し花蓮港廳では年産額木炭目標を二千萬斤とし生産增强期間を定め增産に拍車をかけてゐるが、二月末の第二回增産期間の成績は目標の五十萬斤を突破しカナガン、鳳林、瑞山、白川、安通の主産地から各驛に搬出された數量は八十萬斤に達し百六〇%生産いてゐるの飛躍的增産振りをみせ、殊に[illegible]炭供出に全力を擧げた花蓮郡ロチエーン[illegible]では高砂族[illegible]員で山間の運搬に當り男は五十斤俵二俵、女は一俵を擔いで三キロの險道を八往復するといふ涙ぐましい努力をしてゐる、[illegible]では生産者に對する生活必需物資の特配や贈り物をしてこの勞に報いてゐる、なほ優良生産者の表彰をも考慮中である

皇軍武運長久祈願祭

【羅東電話】六日羅東街組合記念日に當り羅東、利澤簡、三星および冬山各信組役職員六十餘名は午前九時半羅東神社で皇軍武運長久祈願祭を嚴肅に執行した

嘉義商工所の臨時議員會

【嘉義電話】嘉義商工會議所では六日午後三時より同所に於て臨時[illegible]

一、昭和十七年度嘉義商工會議所[illegible]（五、一〇〇圓）

二、昭和十八年度嘉義商工會議所[illegible]（五、二二一圓）

南投神社臨時奉幣祭

【臺中電話】南投神社[illegible]

東石郡自給肥料增産へ邁進

戰爭意識を昂揚
基隆市の陸軍記念日

青年訓練の徹底へ
高雄市　青年學校振興運動

陸軍記念日記念講演會

決戰食糧の確保へ
花蓮港廳下農會通常總會

花蓮港廳畜産會通常總會

戰爭生活徹底

臺南州志願兵第二次檢査

北斗郡水稻正條密植大會

州治の合理的運營へ
高雄州で委任規程作成中

宴會の惡習廢止
嘉義商工會議所率先協力

臺南市で臺劇研究會

總額二萬圓
高雄市の建艦獻金熾烈
六日三千五百圓の大口一つ

員山庄銃後後援會白衣勇士慰問

幼年學校見事入學

奉公の誠を盡す
六日屏東市の職場常會

新竹州

桃園郡

員林郡

斗六郡

手持ち硬貨徹底供出
嘉義郡が八日より猛運動

國防獻金

□第二號表□
新入學兒童の親達へ
臺北市小宮山學務課長談

（後）

（拜）

（入）入學後の兒童の母へ

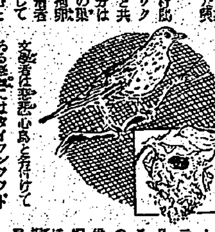
（帳）

（お）

（私）入學前の新調は見合せる事

（幼）

じゆいち



上はタイワンツツドリ
下はハウチワとその巣

流行性
二週間熱のお話

お美しい方ですが

澎湖廳水産會總會

讀書

『臺灣繪本』を讀む
版畫で說いた臺灣案內

日本語教授の建設
平松譽資事氏著

推薦認定圖書
兒童に讀ませたい
臺灣圖書館協會

大東亞共榮圏確立！無電技術の完成！

武藏野高等無線電信學校

校長 建部光麿

早稻田大學

早稻田工手學校

精力減退

早老の若返りに

バイタルゲン

試藥と說明書無代進呈

京都市西ノ京中合町三八

天光堂

特許及商標 出願及鑑定等

東京市小石川區江戸川町

鈴江特許事務所

辨理士 鈴江近太郎

血液を淨化する

腦溢血を豫防

リキシン

大阪市大仁本町

今津化學研究所

肩こり、頭痛……に惱む女性へ！

G.1206

わかさ

自宅無代進呈

新療法

日本醫藥研究所

活力增進

綜合男性ホルモン

ホルトン

活力減退

疲勞倦怠

眼精疲勞

四肢冷感

頭痛・肩凝

數種ホルモンノ複合ニナル綜合男性ホルモン劑ニシテ各ホルモンガ互ニ相乘的ニ效果ヲ協力增強スル

鹽野義商店

ゼオラ

藥用齒磨

齒力の倍强へ！